

## 令和2年度 第2回 青森市スポーツ推進審議会 会議概要

**開催日時** 令和3年2月15日（月）18：30～19：45

**開催場所** 青森市中央市民センター 3階 大会議室

**出席委員** 増田 あけみ会長、柿崎 泰明委員、岩崎 一生委員、神 明彦委員、高杉 勝彦委員、竹内 慎委員、塚田 晴彦委員、中田 吉光委員、奈良原 正志委員、長内 良丸委員、久慈 佐知子委員、斎藤 広樹委員  
《計12名》

**欠席委員** なし

**事務局** 地域スポーツ課長 遠嶋 祥剛、  
地域スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室長 小山 信哉、  
国民スポーツ大会準備室長 中田 真紀子、主幹 淋代 優樹、  
主幹 高坂 岳資、主査 葛西 光明、主査 滝浪 千絵、主事 奥谷 幸斗、  
主事 三上 直子  
浪岡事務所地域づくり振興課 主査 鎌田 圭祐  
《計10名》

**会議次第**

- 1 開会
- 2 審議  
(案件) スポーツ団体に対する補助金について
  - ・一般財団法人青森市スポーツ協会
  - ・青森市スポーツ少年団
- 3 報告  
(案件) 令和3年度当初予算(案) 主なスポーツ振興事業について
- 4 閉会

## **審議（案件）スポーツ団体に対する補助金について**

事務局から、資料 1 のとおり、スポーツ団体に対する補助金について説明があった。

### **意見、質疑応答**

#### ○委員

資料 1 の青森市スポーツ少年団競技大会支援事業補助金について、資料に記載のある競技団体以外の補助はあるのか。

#### ○事務局

団体に対する支援ではなく大会に対する支援となっている。なお、青森県スポーツ少年団フェスティバル剣道競技会は県内持ち回りで開催されるものとなっている。

## **報告（案件）令和 3 年度当初予算（案）主なスポーツ振興事業について**

事務局から、資料 2 のとおり、令和 3 年度当初予算（案）主なスポーツ振興事業について説明があった。

### **意見、質疑応答**

#### ○委員

資料 2 の国民スポーツ大会準備事務について、概ね同タイミングで開催される障害者スポーツ大会の検討状況を教えてほしい。

#### ○事務局

障害者スポーツ大会についても、今後、開催に向けて準備を進めていくことになるが、基本的に、国民スポーツ大会と同じ施設が使用されるため、国民スポーツ大会の準備が結果として障害者スポーツ大会の準備につながっていくものと考えている。

#### ○委員

資料 2 の青森市アリーナプロジェクト推進事業について、アリーナの構想イメージやどのような施設ができるのか、例えば、盛運輸サンドームのように屋内にランニングコースが設置されるものか。

○事務局

これまで、スポーツ協会や商工会議所などの経済団体、地域の代表などの方々と施設に求められる機能、規模について議論した上で、進めてきたところ。

主な機能については、資料 2 のイメージ図の左側の写真中の右部分がメインアリーナ、左部分がサブアリーナとなっている。また、イメージ図の右側の写真のキッズルームや、委員からご質問があったジョギングコースも設置される提案になっている。

そのほか、施設の中には、スポーツジムやカフェバーカーリーなども整備される提案になっている。

○委員

同じく青森市アリーナプロジェクト推進事業について、卓球競技では、白いボールを使用するので白い壁は適さないとされているが、床や壁に関して工夫や配慮をいただけるものか。

○事務局

卓球をはじめ、様々な種目に使用されるほか、事業者から提案を受ける前にも、国民スポーツ大会の卓球会場となる予定であることを踏まえた提案となるように条件を設定しているので、委員のご意見も配慮された施設になるものと考えている。

○委員

このほか、事務局から発言などはあるか。

○事務局

令和 2 年 10 月に開催された本審議会において、委員からご意見をいただいた競輪事業の広報についてお答えしたい。

委員から、前回の 10 月の本審議会において、広報あおもりの 10 月 1 日号に青森ワッツとラインメール青森 FC の PR 記事が一体として掲載されていたが、競輪事業も同様に掲載すればよかったのではないかとのご意見があった。

これまで、ラインメール青森 FC では、試合の始まる 4 月に向けて、3 月に広報あおりへ掲載、青森ワッツでは、下半期の試合が始まる前に掲載されており、それぞれ別々の掲載であったが、昨年に限り、ラインメール青森 FC の試合が、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、青森ワッツの試合が始まる 9 月、10 月にラインメール青森 FC の試合も始まる形となり、タイミングとして一体的な掲載となったものであるので、ご理解いただきたい。

なお、委員のご意見については、競輪事業所へ連絡しているが、当課でも地元のプロチームの PR 支援として、広報あおり以外にも、駅前庁舎内でのパネル展等の PR など、競輪事業所と連携してできないか相談していきたい。

## その他

令和3年2月28日をもって、本審議会の委員の任期が満了することに伴い、委員から感想や今後の抱負などについて発言があった。

### ○委員

コロナ禍でスポーツがあまりできない状況が続いているが、また、元気にスポーツができるような環境になればよいと願っている。

### ○委員

新型コロナウイルス感染症対策で、無観客の状態での大会の開催、座席の消毒などを徹底しなくてはいけない状況であるが、国民スポーツ大会に向けて、新しい体育館ができた際に卓球競技を通じてどんな施設となるのか興味を持っているところ。

### ○委員

サイクルツーリズムなど、市では色々な企画を考えており、市のスポーツ振興に関して有意義な経験となった。手ぶらで青森に来て、たくさんのお土産を持って帰るような取組が浸透すればよいと思っている。

### ○委員

新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年、6月中旬の市の中体連の開催ができず、7月下旬に優勝旗をかけずにリーグ戦などで行う競技もあり、分散して開催したところ。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、開催するノウハウができつつあるので、令和3年度は、今まで通り6月中旬に開催したいと考えていることから、皆様のご協力をお願いしたい。

### ○委員

子どもたちには、小さい頃から運動、スポーツに親しんでほしいという願いがある。青森県や市の現状を踏まえると、人口減少に伴い、スポーツ人口も減少しており、それ以上に体育の成果や生涯スポーツに親しむ人も減ってきていることが寂しいと感じている。

現在、小学校では、部活動からクラブ化を進めているものの、子供たちが運動やスポーツに親しむ機会が減ってくるのではないのかという思いがある。

今後、多くの団体がスポーツ少年団に入っただき、運動やスポーツに親しむ機会の選択肢の一つになればありがたいと考えている。

○委員

様々なスポーツをやっている方に対して、障がい者がスポーツを楽しんで様々な活動をしていること、皆さんの目で見ても、障がいを持っている人たちでもできるんだということも思っただけならば、選手の発掘にもつながると思う。今後とも是非そういう選手になりたい方がいたら、ご紹介いただきたい。

○委員

空手の指導に当たっても、コロナ禍により子どもたちが目標を失いかけていると感じているので、令和3年度は、競技を行う方向で知恵を出して、子どもたちに目標を与えていきたいと考えている。

○委員

青森県のマイナスの部分について、例えば短命県を克服するにはスポーツが一番効果として大きいのではないかと考えているので、技術的な高さを求めるものではなく、日常的に様々なスポーツ団体に参加して体を動かすことが健康に関わりが深いのではないかと考えている。

あらゆる機会を通して、各競技団体においては、できるだけ参加してもらえよう、ハードルを低くして競技を続けてほしいということをお願いしている。スポーツを通して明るく元気に取り組んでいけるようにしたいと思っている。

○委員

コロナ禍が長く続いているが、どうしたらスポーツができるのか、楽しめるかなど、工夫や試行錯誤している最中であると思うが、スポーツを続けることで明るくなり、笑顔が戻ってくるものと考えている。さらには、今後、国民スポーツ大会も開催されるため、各団体においてはご尽力いただければと思っている。

**閉 会**